

交信かく乱用
フェロモン剤!

難防除害虫ハスモンヨトウ防除に!

ヨトウコンーH

(リトルア剤)

登録番号	23421号
安全性	人畜毒性：普通物 ^{注1} ，魚毒性 ^{注2}

注1：毒劇物に該当しないものを指している通称 注2：この登録に係る使用方法では該当がない

ハスモンヨトウ防除に開発されたフェロモン剤「ヨトウコンーH」は、これまでの殺虫剤とは全く異なった交尾阻害という特長を持つ防除剤です。



ハスモンヨトウ(成虫)

成分

(Z, E)-9, 11-テトラデカジエニル=アセタート	69.7%
(Z, E)-9, 12-テトラデカジエニル=アセタート	7.3%
安定剤等	23.0%

キャベツの葉裏に寄生する
ハスモンヨトウ(若齢~中齢)



ヨトウコンーHの特長

- 交尾を阻害して次世代の密度増加を抑制!
- 高い安全性!
- 長い有効期間!
- 天敵に安全!
- 優れた作業性!

ヨトウコンーHの適用内容

適用場所	使用目的	適用病害虫名	使用時期	使用量	使用方法
ハスモンヨトウ 加害作物 栽培地帯	交尾阻害	ハスモンヨトウ	成虫発生 初期から 終期まで	20~200m/107ール (20cmチューブの 場合100~1000本)	露地 施設 作物上に支柱等を用いて固定する 施設内上部に固定する

包装単位 20cm×100本 50m×1巻



ハスモンヨトウの幼虫に食害されたイチゴの葉

おもとめは...



製造・発売元

Shin-Etsu 信越化学工業株式会社
〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-6-1
TEL. 03-3246-5280

ヨトウコンーHの使用法

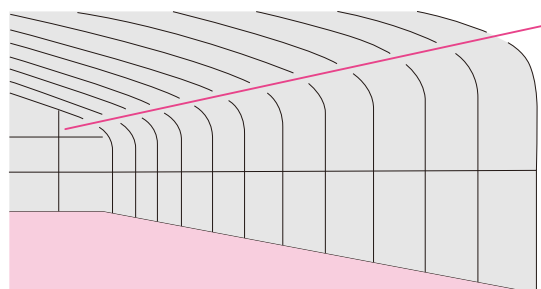
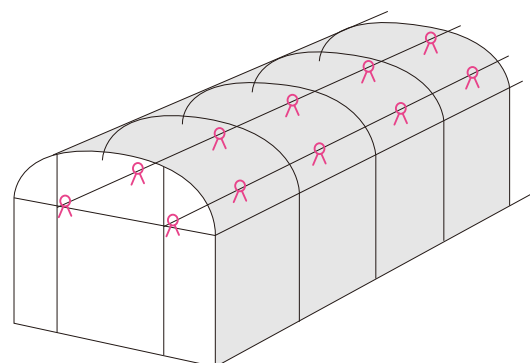
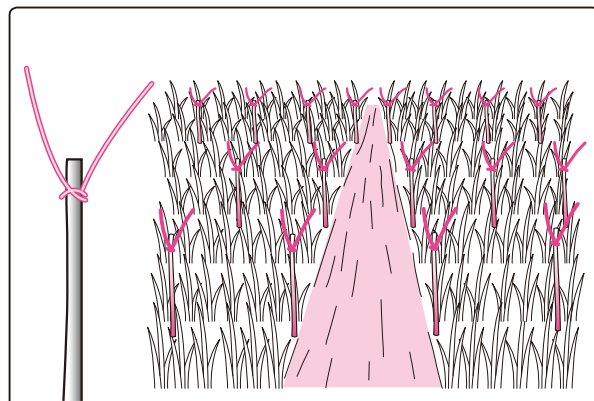
1. 使用量

① 露地の場合（10アールあたり20cmチューブ100～1000本）

対象作物の圃場面積が10ha以上の場合は、10アールあたり100本とし圃場全体に処理して下さい。10ha未満の場合は、使用量の範囲で、とくに周辺部に多めに設置して下さい。

② 施設の場合（10アールあたり50m巻チューブ20～200m、または20cmチューブ100～1000本）

ハウスの間口約10mにつき1本の割合で、50m巻チューブをハウスの端から端まで張り渡して下さい。また、20cmチューブをハウス内の周辺部分は多めに、中央部分は少なめにし、設置間隔は均等に設置して下さい。



2. 使用方法および取付け位置

① 露地の場合

支柱や棚、ネットなどがある圃場では、そこにチューブを取付けて下さい。取付ける場所がない圃場では支柱を立て、そこにチューブを取付けて下さい。取付の際、作物の生育や栽培管理作業の支障とならない高さに取付けて下さい。

② 施設の場合

ハウス内のパイプや鉄線などを利用し、施設上部にチューブを取付けて下さい。露地の場合と同様に、支柱を立てて設置することも可能です。

ヨトウコンーHの使用上の注意事項

- ① 本剤はハスモンヨトウ雄成虫の交尾行動を連続的に阻害して雌雄の交尾率を低下させ、次世代の幼虫の密度を抑えることを目的としています。
- ② 本剤の使用にあたっては、10アールあたり20～200m(20cmチューブの場合100～1000本)を使って下さい。
- ③ 立地条件や風向、傾斜等によって効果が振れる場合があります。諸条件から判断して必要な場合は、使用量の範囲で、とくに周辺部に多めに設置して下さい。
- ④ 本剤は、通常一回の使用で4ヶ月程度の効果が期待できますが、気温の高い施設ではそれより早く効果が低下することがあります。そのような場合や、ハスモンヨトウの発生期間がそれより長い場合は、2回目の設置を行って下さい。
- ⑤ 害虫の発生密度が高い場合には効果が低下することがあります。その場合には、他の薬剤と併用して下さい。
- ⑥ 本剤は既交尾のハスモンヨトウ雌成虫には効果がありません。施設で使用する場合は、開放部に寒冷紗等を張り、これらが外部より飛来しないように努めて下さい。
- ⑦ 下部で換気を行っている施設では使用しないで下さい。
- ⑧ 外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると、本剤の有効成分が揮散するので、必ず使用直前に開封して使用し、使い切ってください。
- ⑨ 本剤は必ず冷暗所(5℃以下)において保管して下さい。
- ⑩ 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所など関係機関の指導を受けて下さい。